



日本赤十字社

赤十字おきなわ

第63号 2020.12



日本赤十字社沖縄県支部の活動

新型コロナウイルス感染症対策
令和2年7月豪雨災害（救護活動）

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

新型コロナウイルス感染症対策

令和2年は、新型コロナウイルス感染拡大が、世界的に深刻な問題となり、国内においても多数の感染者が発生し、国民の生活に大きな影響を与えています。

日本赤十字社では、全国の赤十字病院を中心に新型コロナウイルス感染症の治療および感染拡大防止のための活動に取り組んでいます。日本赤十字社沖縄県支部でも、沖縄県新型コロナウイルス感染症対策本部への職員派遣や、医療機関への物資（テント、機材等）の貸出しを行うなど、感染拡大防止活動に努めています。

沖縄県新型コロナウイルス感染症対策本部への職員派遣



他機関と連携して活動

日赤沖縄県支部では、沖縄県新型コロナウイルス感染症対策本部からの要請に基づき、他機関に先駆けて支援要員を同本部に派遣しました。対策本部では沖縄県庁職員、各医療機関、厚労省、自衛隊、海上保安庁、DMATなどと共に業務にあたり、感染者の入院調整業務、健康観察業務や組織体制の構築に努めています。



入院先の調整



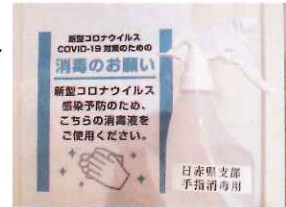
コールセンター（健康観察）

沖縄県支部内のコロナ対策

- ・感染予防品の設置、手指消毒の徹底。
- ・職員用マスクの作成、マスク着用の徹底。
- ・健康管理記録の作成。
(出勤時の体調確認、体温測定)
- ・新型コロナウイルス感染症に対する対応マニュアルの作成
- ・出勤者削減の実施
(職員の3分の1を自宅待機)
- ・会議室内に、飛沫感染防止用の衝立を設置



職員健康管理記録



消毒用アルコールの設置



手作りマスク

物資の貸し出し

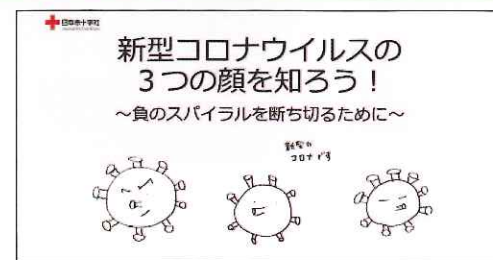
物資（テント、災害用トイレ、簡易ベッド、無線機等）を医療機関へ貸出し、治療、感染拡大防止に役立ててもらっています。



情報の発信

新型コロナウイルス感染症は、新しい病気で不明な要素が多く、同感染症の拡大とともに不安と偏見が世界に広がっています。このような中、赤十字社では地域全体の同感染症への正しい理解を促進し、さらには不安な気持ちや差別、偏見などの広がりを防止するための情報発信に努めています。

沖縄県支部でも広報資材を各市町村、学校(小、中、高校)に送付するなどの活動を行っています。



心肺蘇生時の感染予防

- ① 自分のマスクを着用する。
- ② 意識や呼吸の確認は、倒れている人の顔にあまり近づきすぎないように行う。
- ③ 胸骨圧迫を開始する前に、倒れている人の口と鼻に、布やタオル、マスクなどをかぶせる。
- ④ 倒れている人が大人の場合は、人工呼吸は行わない。子どもの場合は、可能であれば人工呼吸も実施する。

【救急隊に引き継いだ後は】

- ① 石けんを使い、自分の手と顔をしっかり洗う。
- ② 口元にかぶせた布やタオルなどは、直接触れずに破棄する。



会議等の対応

評議員会

文書審議にて対応、令和2年6月実施。
評議員21名全員の賛成をいただき議決されました。

有功会役員会

令和2年7月15日開催。例年の数倍の広さの会場を確保し三密を避け、感染症対策に留意し執り行いました。



高校協議会 定例会

学生が主体となり、Web会議を実施。今後の活動について意見交換を行いました。

地域との連携



医療従事者へメッセージ

県内の赤十字高校生ボランティアの皆さんが、医療従事者への応援メッセージを掲げた写真を各自で撮影し、沖縄赤十字病院へ贈呈しました。写真は、病院ラウンジ等に掲示され、病院職員の支えとなっています。



ビニールエプロンの作成

9月22日に浦添市社会福祉センターにて「沖縄県青少年赤十字高校協議会総会」の開催と、医療従事者向けの感染防止用使い捨てエプロンの作成を行いました。また、各学校でも作成したいとの声があり、約300枚のエプロン作成に取り組んでもらっています。完成後は、支部にて贈呈式を予定しています。

地域の赤十字奉仕団

各奉仕団が材料の調達も工夫しながら、児童や生徒、福祉施設の利用者などに使用していただけるように布マスクの作成を行った。

読谷村赤十字奉仕団

・布マスク 120 枚を読谷村役場へ寄贈

浦添市赤十字奉仕団

・布マスク 140 枚を社会福祉協議会へ寄贈

八重瀬町赤十字奉仕団

・布マスク 60 枚を八重瀬町役場へ寄贈
・布マスク 100 枚を社会福祉協議会へ寄贈

嘉手納町赤十字奉仕団

・布マスク 200 枚を嘉手納町役場へ寄贈

皆様からのご支援ありがとうございます。

沖縄県内の赤十字4施設には、県内外から多くのご支援、温かいメッセージが届きました。職員一同、心より御礼申し上げます。



令和2年7月豪雨災害（救護活動）

令和2年7月豪雨災害は、熊本県を中心に九州や中部地方など各地に被害をもたらしました。

日本赤十字社沖縄県支部では、被災地へ職員の派遣（支部支援要員1名、救護班2班）を実施し、苦しんでいる人を救う活動に全力で取り組みました。



職員派遣状況と活動内容

支部支援要員 1名



【活動期間】7月9日～7月12日

【主な業務】

日本赤十字社熊本県支部を主な活動拠点とし、下記のとおり多様な業務に従事、支援を行いました。

- ・各救護班の活動予定等の情報収集、調整
- ・熊本県災害対策本部への連絡調整員派遣
- ・救援物資の手配
- ・赤十字ボランティアの活動（物資配送、情報収集等）
- ・義援金に関する業務 など

救護班第1班 6名

【活動期間】7月11日～7月14日

【主な業務】

熊本県の芦北町にて活動を実施。巡回診療を行うなど、被災者や被災地域の支援に努めました。

- ・避難所での巡回診療
- ・避難所アセスメント
- ・コロナ感染防止、血栓症予防周知・指導
- ・地元保健師業務のフォロー



救護班第2班 6名

【活動期間】7月20日～7月23日

【主な業務】

熊本県の人吉市、多良木町を巡回し、こころのケアの実施、避難所の要望の把握など、被災者に寄り添った活動を行いました。

- ・避難所の巡回診療
- ・血栓症予防啓発・指導
- ・こころのケア
- ・避難所のニーズの把握、環境チェック・アセスメント
- ・避難所における感染予防対策の啓発



赤十字の活動資金にご協力をお願いします

県民の皆様には、日頃から赤十字事業に対し温かいご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

日本赤十字社は、災害時の救護をはじめ、講習普及事業、ボランティアの育成、国際活動、医療、献血事業など、人びとの健康で安全な暮らしを守るため、幅広い活動を行っています。

これらの活動は、皆様から寄せられる活動資金によって支えられており、活動を推進していくためには、一人でも多くの方々のご協力が必要です。

何卒、赤十字の趣旨、活動の目的をご理解いただきまして、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

日本赤十字社沖縄県支部

どうすれば赤十字に協力できますか？

- 1 毎年5月の赤十字運動月間を中心に、地域の町内会・自治会などのご協力により、ご寄付を募っています。
- 2 日本赤十字社沖縄県支部やお住まいの市町村役場の赤十字担当窓口で受付しています。
- 3 銀行からお振込みいただけます。
※手数料が免除となる専用の振込用紙がありますので、沖縄県支部までご連絡ください。
- 4 指定の預金口座から自動引落でご協力いただけます。
※専用の振込用紙に必要事項を記載していただく必要がありますので、沖縄県支部までご連絡ください。
- 5 クレジットカードの決済でご協力いただけます。
※日本赤十字社のホームページ (<http://www.jrc.or.jp>) からお手続きをお願いします。
- 6 遺贈によるご寄付や相続財産のご寄付でご協力いただけます。

表彰制度があります

日本赤十字社の活動資金にご協力いただいた場合は、その金額に応じて表彰制度を設けています。

銀色有功章	20万円以上に達した方
金色有功章	50万円以上に達した方
日本赤十字社 社長感謝状	金色有功章受章後、 50万円以上に達した方

※そのほか、国の表彰もあります。



税制上の優遇措置が受けられます

日本赤十字社にご寄付いただいた活動資金は、個人の所得税や企業などの法人税での優遇措置が受けられます。また、ご遺族が相続された財産を日本赤十字社に寄付することによって、相続税での優遇措置が受けられます。

 **日本赤十字社**
Japanese Red Cross Society

沖縄県支部

那覇市与儀1-3-1 ☎(098) 835-1177

日本赤十字社沖縄県支部

検索

沖縄赤十字病院

那覇市与儀1-3-1 ☎(098) 853-3134

沖縄県赤十字血液センター

那覇市与儀1-4-1 ☎(098) 833-4747

日赤安謝福祉複合施設

那覇市安謝2-15-2 ☎(098) 862-4321